

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成22年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住まいを理念として、自立支援を行う事を大切に運営しております。個々の生活の場として心地よい居住空間と笑顔のある生活の提供を心掛けております。来苑される方々にもおもてなしの心をもって、気持ち良く対応する様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉県郊外の閑静な住宅街に立地し、近くに公園もある環境に恵まれたホームです。ホームでは、医療面に大変力を入れており、月2回内科医、歯科医が訪問診察し、看護師が週1回訪問するようになっています。
このホームの優れている点は、経営者の方針により、「施設でなく、住まいを提供する=真心とぬくもり、ゆったりとした暮らし、やすらぎの空間、おもてなし=理念」を既実践していることです。重度の利用者や家族との縁が薄い利用者を率先して受け入れており、ケアの結果介護度が下がった利用者もいます。利用者が食事前の嚥下予防体操でコーチ役を努め、皆さん食事後も談笑しながら過ごしていたのが印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	真心とぬくもりある介護サービス。喜怒哀楽のある生活を、人としての暮らしを、当苑のおもてなしの心としての理念に努めております。	理念として「真心とぬくもりの介護、ゆったりとした暮らし、やすらぎの空間、ききょう苑のおもてなし」を掲げています。ただ、グループホームの主旨である地域に根ざすことが織り込まれていない状況です。	代表、管理者、職員で話し合い、従来の理念に地域に根ざすグループホームの主旨を織り込み、玄関に掲げて、全員で共有し実践することが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等に積極的に参加している。	町内会に加入していませんが、地域の納涼祭に参加したり、ボランティア(フラメンコダンス、フラメンコギター、マジックショー)を受け入れています。又ホームの花火大会開催時には、近所の方々に声をかけ一緒に楽しんでいきます。	町内会に加入し、町内会の各種行事に積極的に参加すること、特に、娯楽的な行事(納涼祭、演芸会等)ばかりでなく、地域に貢献する行事(掃除、草取り等)にも参加する事が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に行っておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特にご家族様のご意見ご要望を、即時対応しています。	昨年5月に、代表、管理者、職員、利用者、家族(13名)で開催しています。議題は、ホームの現況報告、事務報告、重要事項案内等で、出席した家族と活発な意見交換をして、運営に反映しています。	会議は2カ月に1回以上開催することが望ましいとされています。外部の方が出席しやすい日を調整して回数を増やしていき、議題も、外部評価の課題と改善状況、認知症とその対応の説明等を追加し、サービスの向上につなげる事が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に必要な事以外での連絡は取り合っておりません。	生保関係者の取り扱い、手続で市担当に相談し、報告しています。また、必要な都度、市担当には報告、連絡しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切ありません。	身体拘束禁止のマニュアルを作成し、職員全員で話し合い共有しています。玄関は、車の多い道路に近いので昼間も施錠しています。この点は家族の了解を得ており、また行政とも相談の上条件付き(利用者が希望すれば錠を開ける)で了解を得ているとのこと。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から又、職員会議での虐待についての禁止行為の理解をホーム長・管理者で徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者が居ない為、行っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約改定の際は予めご説明の上、ご理解頂いての実行としております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご要望は都度、お応えさせて頂いております。	日頃利用者からの要望を聴き、家族からは来訪時や電話連絡時に意見、要望を聴いて、運営に反映するようにしています。具体的には、利用者の水分供給目安を医師、家族と相談して決めたり、ベッドの買い替えを相談して決めた事もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の反映は出来ております。	管理者は、日頃の業務時に職員の意見を聴いたり、1, 2ヶ月に1回の職員会議で意見、要望を聴き、代表に相談の上、運営に反映しています。具体例としては、物品の購入、入居者の部屋の移動、他の施設見学等の実施があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は常に把握し、努力に応じたの手当や昇給又配置等にて整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に資格取得を促し、より高度な介護サービスの理解をする様にしており、それに係る費用は当社で負担しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃より、市内の介護サービス事業所の代表者の方々と連絡を取り合いながら、質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望に即、応じて不安なく生活出来る環境を提供しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご要望は都度、お応えさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入所時には、代表者・管理者他数名にて介護サービスについての支援について話し合いを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様・職員共に家族の心を持ち共同生活を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には日頃より、ご来苑のお願いやイベント参加を促しご参加頂き、一緒に過ごす時間を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は取り易い環境にあります。	利用者の友達が訪ねて来たり、馴染みの美容師が来てくれたり、行きつけの美容院に職員が連れ添っています。買い物で商店街に行った時に、利用者の馴染みの喫茶店に立ち寄ることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の介護なので開設時より行われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡での契約終了しかない為、具体的な取り組みはございませんが、終了後も相談・支援は行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を第一に行っております。	家族等の縁が希薄な方が多いので、直接利用者から汲み取るようにしています。日頃の利用者の言葉、表情、態度から感じ取ったり、推察して、本人本位で試みるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	結果こそ、ケアプランに必要な不可欠なのでこれまでの事柄は役立てております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員による把握は勿論、看護師・医師による心身状態による把握が出来ます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成には全ての内容を反映させております。	管理者・看護師・ホーム長・介護職員で、家族の考え、介護ケース記録、かかりつけ医の診察・助言記録を参考にしながら、介護計画を作成しています。見直しは3ヶ月に1回及び必要な都度行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ごとにノートを置き、詳細な状況を各職員が把握し適正なサービス提供を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結果による改善は常に行っておりますが、外部でのサービス内容などをもっと幅広く情報収集し、反映して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	完全な把握は出来ておりませんが、安全で豊かな暮らしは出来ております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の訪問受診により、適切な対応が行われております。	利用者は入所前の病院から月2回訪問医の診察を受け、歯科医も月2回来訪し、歯の治療、口腔ケア等を受けています。医療関係では手厚い支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回、健康状態の管理を行い医師との連携をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の為に、医療機関との協働はかなり密な関係をとっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、ご入所時に話し合いを行っております。	看取りについては、契約時に6項目の指針を家族に示し、話し合っています。実際に終末期に、医師、家族、職員で相談して、看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師による緊急時の訓練を行いました。が、もっと訓練回数を増やして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難の認識は全職員が把握しております。	消防署を呼んだ防火訓練を年1回実施しています。消火器、煙・熱探知器、火災報知器が設置され、緊急時の対応表と連絡先が掲示されています。代表の一族が近くに住んでいるため、応援体制も出来ており、備蓄も貯水タンクを設置し、食物も準備しています。	消防訓練は、消防署を呼んだ訓練を含め、年2回(夜間想定訓練を含む)実施することが望まれます。また、利用者の重度化が進んでいるので、2階の避難対策も必要と思われれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシー保護は理解の上での対応を行っております。	「利用者さんは人生の先輩です。いろんなことを教えてもらって楽しいです。」と職員は語り、日頃職員の利用者の人格を尊重していることや温かさが感じられます。声かけはさん付けで行ったり、オムツを替える時は部屋のドアを閉めたり、トイレの場合にはそっと近寄り動作で誘導するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のご意向により、日常生活を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当苑では極力、決まり事をつくらず個々の生活を支援する立場としたサービスを提供しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日室内に居ても着替えを行い、パーマをかけたいと申し出があればお連れしご希望に応じて支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様・職員と一緒にしております。	利用者は「この食事は美味しいよ。」と口を揃えて言います。「食べたいものを話しておくとお刺身も出してくれた。」と話していました。後片付けは自分に合った事をして手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・看護師の指導により支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	開設より自立支援の目的により、おむつの使用は極力しておりません。	排泄パターン表からオムツ外しに極力努め、成功しています。介護度4の利用者が要支援2になり、現在自分のことは自分でしている好例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師に相談の上、予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様個々のご希望に応じておりますが、必ずではありません。	入浴回数は利用者と家族の要望で決められています。但し、危険防止のため、一人で浴槽に入れない人はシャワー浴です。入浴剤で香りを楽しみ、入浴後は水分をとっています。	高齢化が今後一層進み、全介助者や車椅子使用者がますます増加することが考えられるので、費用はかかるものの、時間をかけてリフト浴等を検討することが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各生活習慣を把握して、支援出来ております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の訪問や看護師もおり、全職員が把握しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味などを活かせるレクリエーションに取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は頻繁に行っております。	利用者の6名位が毎朝40分から50分散歩しています。外出困難な方は日光浴をし外気に触れています。10人乗りの車を購入し、桜・アジサイ見物、イチゴ狩り等の遠出を皆で楽しんでいきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に相談の上、所持・使用の支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話や手紙のやりとりなどが出来る様支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的な心地よい環境は出来ております。	新築の建物で、居間は日当たりも良く清潔でゆったりとして、利用者が思い思いに寛げるようになっています。居間には、季節の花が飾られ、壁には職員と利用者合作の折紙絵や、行事写真が貼られ、季節感、生活感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様への必要な配慮をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご要望に応じた居室空間となっております。	利用者は、居室に思い思いに馴染みの物(仏壇、寝具、冷蔵庫、テレビ、小机、藤椅子、写真、絵、箸、茶碗等)を持ち込み、自分の家のように居心地よく過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居の方全て、安全に配慮し自立支援に取り組んでおります。		